

2026年
(令和8年)

1月1日[木]



沖縄大学

発行

沖縄大学同窓会広報委員会

〒902-8521 沖縄県那覇市宇国場555

☎・FAX 098 (832) 6560

E-mail
dosokai@okinawa-u.ac.jp

第41号

同窓会報



新しい希望の年を迎え、同窓の皆さまには心よりお慶び申し上げます。私たち同窓会は「行動する同窓会」として、昨年1年間も確かな成果を積み重ね、活動の輪も大きな広がりを見せました。

ここでは、その足跡を振り返りながら、新たな希望を皆さまと共有したいと思っています。

2025年3月22日には「同窓会九州支部」が誕生。関東、関西に次ぐ県外での新たな拠点ができたことで、沖縄を離れた同窓が互いを支え合う場がさらに広がりました。

続く5月31日には長年の夢だった「ヤンバル支部」が発足。北部地域に根ざした仲間の輪が広がっています。こうした二つの支部が誕生する中で、10月には関東

支部が企画し実現した「沖縄国際大学校友会」との初の「合同懇親会」が開催されました。関東で活躍する同窓の活動に勢いをつける新たな試みとなりました。

また同じく10月には「現代音楽クラブ創立50周年交流会」が行われ現音のOB・OGと現役学生が、世代を超えて音楽でつながりました。

こうした同窓の活躍の「背中を押してくれた」のは現役学生の文武両道にわたる「頑張る姿」だったかもしれません。

今や「教員をめざすなら沖縄大学」といわれる教員採用試験では昨年度、過去最多となる現役36人、既卒を含めると計60人が合格するという快挙を達成。教職を志す後輩たちの努力と指導する教職員の情熱が結果

に結びつきました。

そして昨年の最大のニュースともなったのは6月、大学新理事長に同窓会から喜納憲利さんが就任されるという嬉しい出来事です。新理事長誕生により、母校と同窓会の結びつきがこれまで以上に深まり、新たな時代の幕開けとなるよう同窓会も尽力してまいります。

「日に新たに、日に新たに、また日に新たなり」(大学)という言葉がありますが、本年も私たちは、同窓生一人ひとりが新たな気持ちで「挑戦と行動」を展開することで、同窓会や大学のさらなる発展に繋がることを信じて希望に満ちた一年を歩んで参りましょう。



沖縄大学同窓会

会長 棚原勝也



学長あいさつ



学校法人沖縄大学

学長 山代 寛

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素より、母校・沖縄大学の発展に温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

本学は「地域共創・未来共創の大学」として、地域課題に果敢に挑戦する人材の育成に全力を注いでおります。

予測困難な時代と言われる昨今ですが、キャンパスには夢に向かって真摯に学ぶ学生たちの姿があり、彼らの眼差しは希望に満ちています。

そうした学生たちの成長を支える大きな力が、同窓会の皆様との「絆」です。

皆様が社会で培われた実践的な知恵や、多様な価値観に触れる機会は、教室の中だけでは得られない貴重な学びを学生にもたらし

くれます。

先輩から後輩へと受け継がれるこの「沖縄大学のDNA」こそが、本学が社会に貢献し続けるための原動力であると確信しております。

本年も、「沖縄大学論」などの講義、各種プロジェクト等を通じて皆様との連携をさらに深めていけることを楽しみにしております。

最後になりましたが、同窓会のさらなる飛躍と、皆様にとりまして本年が実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

後援会長

あいさつ



沖縄大学後援会

会長 仲里 武思

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、備蓄米を放出したり、日産やシャープが工場を閉鎖・売却したり、大

阪万博が盛況だったり、関税交渉がうまくいったような、いかなかったような何かと時代の区切りを感じる年が多かったです。

そのような状況においては自分ではどうすることも出来ないことは潔く捨て、自分のできることに集中することが肝要だと思います。

いよいよ生成AIの社会実装が始まり、もはや私の年齢でも使う基本ツールになりつつあります。英会話だつてAIと練習する時代、大学の講義も「いつかもしかしたら」と想像する人もいます。

一方でそれへの精神的依存が社会問題化する恐れもあり、やはりリアルな人間関係にこそ人間力を高める根源がある気がします。

教員と学生、学生同士がしっかりと向き合いながら、学生の洞察力を高めていくところに大学教育の果たすべき大きな役割のひとつがあるのだと思います。

そしてその活動を支えている一翼が同窓会なのだと実感しています。

いろいろな葛藤を乗り越え、変化に柔軟な対応ができるよう同窓会自らできる小さな実験を繰り返しながら、これまで同様の多くの貢献を期待しつつ、沖縄大学同窓会の更なる発展に繋がる年となるよう祈念します。

理事長あいさつ



学校法人沖縄大学

理事長 喜納 憲利

新年あけましておめでとうございます。同窓生の皆さまにおかれましては、新たな希望を胸に新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、私立大学にとつて大きな改革の年となりました。大学運営の根幹となる私立学校法が改正され、4月1日に施行されたことによるものです。

今回の改正は、私立大学の運営においてガバナンスを一層充実させ、より高い社会的責任を果たす体制を整備することを目的として

おります。本学としても、その趣旨を十分に踏まえ、新たな決意のもと諸課題に取り組んでまいります。

昨年も、本学学生の活躍は大変目覚ましいものでした。

軟式野球部の金城幸太郎さんが日本代表に選拔されたこと、教員採用試験において現役学生36名が合格し過去最多となったこと、さらには、なぎなた部の泉水ほのかさんが全国大会で三位に入賞するなど、多くの大きな実績が生まれました。

これは、学生と教職員が一体となって努力を重ねてきた成果であると確信しております。

また同窓会からは、こうした学生の活躍支援に加え、資格取得支援、大学祭の運営補助、国家資格取得補助、同窓生子息・子女の入学金補助など、多岐にわたる温かいご支援を賜りました。学生にとって大きな励みとなっており、心より感謝申し上げます。

同窓会におかれましては、この数年で関東支部、関西支部、九州支部に加え、昨年6月にはやんばる支部も発足するなど、活動がますます活発化しております。

このようなアグレッシブで力強い取り組みに心から敬意を表します。

本年が会員皆さまにとつて、より一層輝かしい一年となりますよう祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

奥間邑明氏へ
感謝状贈呈

沖縄大学同窓会の事務局として長年にわたる尽力された奥間邑明氏の退任にあたり、感謝状を贈呈しました。

奥間氏は在校生を温かく見守りながら、同窓会との架け橋となる窓口役として大きな役割を果たされました。

円滑な会務運営と同窓生交流への多大な貢献に、出席者一同、深く感謝の意を表しました。



2025年度沖縄大学同窓会の定期総会が6月7日行われた。同窓会は前年度決算と活動について報告し、今年度予算案および事業計画案が総会審議された。

また3号議案として役員・評議員についても審議が行われ、新役員として大城明と小幡吉照が副会長として選出された。

その後、大学後援会との合同開催にて懇親会が沖縄大学同窓会館で行われ、琉球舞踊や吹奏楽部の演奏が座を盛り上げた。



定期総会・懇親会



同窓会活動報告



令和7年9月26日、沖縄大学の新理事長に就任した喜納憲利理事長の就任激励会が、同窓会の主催で那覇市内にて行われた。

ささやかな会にしたいとの新理事長の意向も受け、役員と副会長、顧問を中心に青年部会長など数人の評議員が参加した。

挨拶に立った喜納理事長は「大学は今、大きな過渡期にきている。何が必要か考えながら頑張っていきたい」と語った。

また会場には、台湾で開催される全日本大学軟式野球国際親善大会に、日本代表20名のメンバーに選ばれた、軟式野球部の金城幸太郎内野手も激励に駆け付けた。選手には同窓会から遠征費支援を行っている。

喜納新理事長激励会



青年部会主催 観月会



沖縄大学同窓会青年部会は現役学生を応援し、サークル活動や海外研修等で活躍する沖大の現役生を招待して、観月会を令和7年11月29日に開催した。

水球部・硬式野球部・海外研修生・沖大際実行委員ら大学職員等を含めて25名以上が参加し、今年度から就任した比嘉康太青年部会長はB・B・Qなど振る舞い、学生たちを激励した。



令和7年8月9日、沖縄大学同窓会館において「社会福祉士」と「精神保健福祉士」の国家試験合格者24名の激励会が行われ、同窓会から国家資格取得支援金を贈呈した。

なお、「社会福祉士」と「精神保健福祉士」の両試験を合格したのは9名。

大城明同窓会副会長は

「助けてほしいという声をあげられない方もいるかもしれませんが、そういう人々に寄り添う社会人になってください」と励ましのことを送った。

出席した合格者の自己紹介の際には、車イスのため登壇できない合格者に気づき、合格者全員が自主的に舞台上に並びなおす場面も。

福祉士合格者激励会



終会の挨拶で上田真弓同窓会副会長は「先ほどの壇上での皆さんの行動をみて心を動かされました。皆さまが福祉士を志したことに心強さを感じます」と述べた。

激励会後は資格合格者・来期受験生・教員にてグループディスカッションが行われた。

同窓会学生支援



スタディーツアー

2025年度スタディーツアーは9月7日からベトナムに6泊7日の研修が企画され、同窓会は9月3日に派遣費の支援を行った。

ツアー参加は経法商学科3名、国際コミュニケーション学科3名、こども文化学科1名の計7名。ハノイ市のフェニックス大学にて、現地の学生と市内施設見学やプレゼンによる交流を行った。

海外研修



沖大祭実行委員会

2025年沖大祭は11月1日より2日間の日程で行われ、同窓会は10月16日、実行委員会へ運営費の支援を行った。

「準備は順調ですか」という同窓会側の問いに、実行委員は「来週からは泊りになる」と意気込みを見せた。

運営支援金は大城同窓会副会長より宮里実行委員長へ手渡された。今回の沖大祭は第66回を数える。

陸上部



西日本学生選手権出場

令和7年9月3日、沖縄大学陸上競技部に対し、同窓会は派遣費を支援した。14名が京都へ派遣される。

西日本学生陸上競技選手権大会の標準記録を突破した選手は男子7名、女子7名。100m、100mリレー、200m、走り高跳などの種目で練習の成果を競った。

水球部

日本学生選手権出場

同窓会は2025年8月14日、日本学生選手権水泳競技大会水球競技に出場する沖縄大学水球部に派遣費の支援を行った。

支援金の贈呈には宮本監督ほか6名の部員が参加し、棚原同窓会長より派遣支援金を手渡された。水球部は2022年に九州を初めて制し、以後4年連続の九州制覇となる。



硬式野球部

全九州大学野球選手権

2025年10月21日、同窓会は全九州大学野球選手権大会へ出場する沖縄大学硬式野球部に派遣費を支援した。

硬式野球部は南九州決勝トーナメントを16チームで競い、3位入賞し全九州出場を決めた。支援金は棚原同窓会長より副主将の津波選手へ手渡された。



軟式野球部

全日本大学軟式野球選手権

沖縄大学軟式野球部は沖縄秋季リーグを制し、全日本大学軟式野球選手権大会出場を決めた。同窓会は令和7年10月29日、派遣費支援として軟式野球部主将の外間選手に派遣支援金を手渡した。

玉城監督は「個人の力があり、投打だけでなく機動力を備えている」とチームを評した。夏の大会「サマーカップ2025」に続く全国出場となった。



現音クラブ

創立50周年

交流会

現代音楽クラブは創立50周年を迎え、令和7年10月26日、沖縄大学同窓会館にて沖大・女子短大の現音クラブOB・OGおよび現役学生メンバーが参加し、音楽による交流会を開催した。

現役1組、OB・OG6組によるプログラムで、開会に際して大城明同窓会副会長が応援の挨拶を行った。



社会福祉専攻

ホームカミングデイへの誘い

2026年2月28日、沖縄大学アネックス共創館にて、社会福祉専攻主催「ホームカミングデイ2025（第2回）」を開催します。

昨年3月に開催された第1回では、在校生を含め約120人の参加があり、活発な交流と情報交換が行われました。

現在、継続的に交流の場をつくらせていくよう沖大・社会福祉専攻も創立するべく準備をすすめています。卒業生であれば誰でも参加可能です。左の参加フォームからお申し込みください。



参加フォーム

沖大・沖国大 同窓支部合同懇親会開催



沖大同窓会関東支部は、同窓会として初の取り組みとして10月18日(土)に東京・渋谷にて、沖国大交友会(同窓会)東京支部との合同懇親会(立食形式)を約40名の参加で開催をしました。

沖大同窓会本部からは棚原会長・島袋副会長、沖国大同窓会本部からは友利会長・佐渡山副会長もご参加いただき、それぞれご挨拶をいただきました。

また、沖大関西支部からも神田副支部長・橋口事務局長も参加いただきました。各役員の皆様方から「今回の同窓会初の両校の合同懇親会は、日本の中心である東京から、また渋谷という



ファッション・カルチャーの最先端の発信地であり変化し続ける街での開催で意味のあることだ。また、同窓会として新しいことへの挑戦は素晴らしいことである」と嬉しいお言葉をいただきました。

当初の予定は3時間でしたが、会話が盛り上がり過ぎて時間が足りずに、自己紹介タイムも1分から30秒に短縮し、またお互いの同窓会活動の紹介の資料も用意していました。その時間も取りやめ交流の時間にあ

ても、話し足りないほど盛会でした。

やはり、母校や沖縄への熱い思いは同じであり、即意気投合して、双方支部役員もこの企画は年1回定番開催をしたいと意見が一致しました。

沖国大の交友会東京支部に学ぶ点として、学生の関東への就職段階から接点をもち、その学生が関東へ就職された際には東京支部会員となる流れをつくっているところだ。若し会員が増える仕組みは大いに学ばべき点です。

沖大の関東支部の会員が増え、さらに発展をしていくためにも、この仕組みは検討してまいります。

今回の合同懇親会を通じて、様々なところで活躍をされている多彩な人材を、大学を超えて繋げるプラットフォームの必要性を感じました。

こうして卒業生の活躍を見える化することは、在校生との距離も縮め、大学自体のブランド価値も高めることだと思います。



引き続き、関東支部は新しい取り組みにチャレンジしていきますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

関東支部長 仲宗根政則



人物シリーズ 活躍する 同窓生 ②

この人物シリーズは、同窓生の社会的活動を紹介するとともに、同窓生同士のネットワークを広げること、在学生へのメッセージを通して沖縄大学との絆を深めたいとの趣旨で企画されました。

株式会社「GLOBAL」
代表取締役
合同会社沖縄あちこーの
代表社員

小幡 吉照さん

2016年3月卒業
人文学部福祉文化学科
健康スポーツ福祉専攻



◆在学中の思い出

幼少期から続けていた野球を大学でも続けるため、硬式野球部に入部しました。

1学年上の先輩たちの時代に、2003年春以来、20季ぶりのリーグ優勝を果たしたことが1番の思い出ですね。

当時は名桜大学が10季連続優勝をかけて挑んでいたリーグ戦で、優勝決定戦までもつれ込んだ結果の優勝ベストナイン(三塁手)と打点賞1位を受賞できたことが嬉しかったです。



大学野球部時代

◆卒業後の進路

スポーツメーカーの「ゼット株式会社」に入社しました。これまで野球を続けてきた人なら誰もが憧れる会社ではないでしょうか(笑)

沖縄県担当として、社会人から少年野球チームまで担当していました。また、チーム周りだけではなく、スポーツ店の営業もしていたため、かなりの知識や経験を習得できたと思っています。

ます。ゼット時代の経験や人脈は今でも大きな力となっています。コロナ禍の2020年に退職して、海外(ミャンマー)に行く予定でしたが、コロナの第二波や軍事クーデターにより渡航を断念。そのタイミングで人材会社を起業しました。

◆お仕事の喜びは?

「特定技能」外国人を支援する登録支援機関として、インドネシア・ミャンマー・ベトナム・フィリピン・ネパール国と提携しています。

現在、日本では深刻な人手不足に陥っています。外国人の方の労働力を借りないと成り立たない時代はそこまですべて迫っています。主にインドネシア人を支援しているのですが、現地の給料(手取額)との差は3~5倍ほどあります。

外国人の方たちは「ジャパンドリーム」を夢見て、日本語を勉強しながら求人票を待ち、いざ面接の時には日本人にはない「必死さ」があります。

我々が1社でも多くの求



提携先のインドネシア日本語学校

たちからは沖縄に来た時に感謝された時が、この仕事をしていてよかったと喜びを感じる瞬間です。

◆在学生へ メッセージを

今ある時間を有効活用に！

色んなことにチャレンジしてたくさんの人に会ってほしい。人生は長いようで短いです。

大学生時代は私自身も朝まで吞んで1日寝ていた時も、もちろんあります(笑)その経験も大事ですが、大学時代が1番時間があったなと思います。

つでも多くのことにチャレンジしてほしいです!! 陰ながら応援しています。は今でもたまに集まって近況を報告し合っています。働く業界は違っても、互いに刺激を受ける大切な存在です。

沖縄大学で築いた人間関係が、今も私の強い支えになっています。

最後に、在学生の皆さんへメッセージを送ります。「沖縄大学での学びは、必ずあなたのチカラになります」。今のすべての学びと経験が、必ず未来の糧になります。

「コンクリートの道は歩きやすいが、砂浜は歩きにくい。でも、足跡が残るのは砂浜だ」。自分の歩んでいる道をしっかりと刻んでください。そして、いつか皆さんが社会で活躍する姿を、私たち同窓生は心から楽しみにしています。

人票を提携先のインドネシアの会社へ送ることによって、人生を変えられるチャンスを提供できるのです。

1人でも多く人生が変わるチャンスを提供でき、日本側の企業様も人手不足の解消に繋がり、外国人の方

今でも思います。そして、1つでも多くの国に旅行に行つて、海外の人と交流してください。

日本人には持っていない考え方や感覚に出会えるはずです。失敗を恐れずに1



合同会社沖縄あちこーの代表社員として商品をPR

人物シリーズ 活躍する 同窓生 ③〇

株式会社 ERD labo OKINAWA
常務取締役

大城 明さん

1990年3月卒業
法経学部経済学科



私は1990年に沖縄大学法経学部経済学科(学番号86K104)を卒業しました。現在は日経教育グループ「株式会社HRD labo OKINAWA」常務取締役として、人材育成や組織づくりに携わる事業を行っております。

◆沖大進学の経緯

沖縄大学へ進学を決めた

のは単純で、那覇市にある大学、自宅から近い大学というのが大きな理由です。同時に、子供のころから柔道に励んでいたのも、道場にも近い進学先として選んだ結果が沖縄大学でした。少し恥ずかしい理由ですが……。



大学時代

この単純な理由が原因だったのを知る由もありませんが、推薦試験で不合格となり、一般受験で合格しました。推薦試験の不合格がとても悔しかったので、合格の番号を見ても嬉しさはほとんどなく、「合格できて良かった」という気持ちだけだったのを覚えています。

当時の沖縄大学は、地域(地元)に根ざした学びを通じて沖縄の未来に貢献するという思いが強い大学だったと記憶しており、「地域とともに歩む」という言葉

に共感したのを覚えています。

在学中の思い出として特に印象深いのは、狩俣真彦教授の地域経済学です。

「これからの沖縄はサトウキビや農作物ではなく、基地に依存することのない観光産業が必ず発展していく」という学びの中で、これからの沖縄のあるべき姿がなんとなく見え始めたような気がしました。

地域経済の中で、特に沖縄の雇用構造や観光産業の動向など、身近なテーマを掘り下げていくと、人々との繋がりが地域を発展させる原動力としてあり、「人材育成」が大切なのだと、狩俣教授からの教えが自分ごととして深く定着していったように思います。



友人と。左が本人

そのこともあってか、狩俣教授からの教えが今の私の仕事に直結しているようで感慨深くなりま

す。大学在学中の3年間で卒業に必要な単位以上を取得したので、4年次に在籍しながら東京、横浜で一人暮らしをし、ホテルマンとして働き始めました。

将来は観光産業の最前線のホテルで総支配人を目指すつもりで関東の地で必死になって頑張りました。

その後、沖縄に戻ってからはホテル業界で働きながら、先輩方のご縁に導かれて転職し、5つの職種、20種近くの業務を経験し、現在の組織に参画しました。40代後半から専門学校副校長を務めた後、人事ローテーションの一環で県内大手ライフライン系企業へ出向。

◆現在の仕事

50代から現職に就き、企業の人材育成支援や研修設計、人事制度設計など、人材育成を中心に幅広い業務に携わり、研修講師も務めています。

沖縄の企業がより多様で



左奥が本人

持続可能な組織になるために、微力ながら貢献したいと考えています。

クライアント企業様の人材育成の現場では、仕事の価値観の違いや制度の壁に直面する場面も多く、また、世代間でのコミュニケーションのミスマッチや文化・習慣の違いに悩まされる企業様も多くいらっしゃいます。

そうした問題解決の一助となるきっかけを提供し、壁を乗り越えて社員が安心して働ける環境を整えられたときの喜びは格別です。人が成長し、組織が変わっていく瞬間に立ち会えることが、何よりのやりがいです。

仕事以外では、今までの経験を活かして、中学校や高等学校の若い世代に対し

て、ボランティア活動の一環で講演会やキャリア教育の支援に関わっています。

出身高校の同窓会長も務めているので、若い世代が今後の自分らしいキャリアを描けるようサポートすることに意義を感じています。

また、同窓生との交流も続いており、ゼミの仲間とは今でもたまに集まって近況を報告し合っています。働く業界は違っても、互いに刺激を受ける大切な存在です。

沖縄大学で築いた人間関係が、今も私の強い支えになっています。

◆在学生へのメッセージ

最後に、在学生の皆さんへメッセージを送ります。「沖縄大学での学びは、必ずあなたのチカラになります」。今のすべての学びと経験が、必ず未来の糧になります。

「コンクリートの道は歩きやすいが、砂浜は歩きにくい。でも、足跡が残るのは砂浜だ」。自分の歩んでいる道をしっかりと刻んでください。そして、いつか皆さんが社会で活躍する姿を、私たち同窓生は心から楽しみにしています。